

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國 (写真)

日 時：2017(平成 29)年 11 月 02 日(木) 9:30～15:30

気 象：天候=晴 (12 時の気温：14℃)

活動エリア：44 林班い・ろ・に、並びに 45 林班に・01

活動内容：44 林班内の巡視を兼ての林床整備、自然歩道・里道の整備・保全、ほか

参加者：斧田一陽、倉谷邦雄、後藤和子、武田壽夫、宮本 廣、山 國 (計 6 名)

<台風の影響が気がり>

先月 23 日の台風 21 号は各地に大きな爪跡、山の荒れを気にしながらのこの 10 日間だった。

幸い今日は絶好の活動日和、作業小屋への車中からは枝折れが散見される。小屋に足を進めると根起こしを含め倒木が数本、地上は一面の落枝。幸い、小屋の屋根に倒れかかった木は無く、これは一安心。山の様子も気懸りだが、その前に先ずは一帯の後片付けから始める。

今日の主眼は台風の影響把握と出来る範囲で復旧・保全に取り組むこと。and モニタリング調査区の現況確認。即ち整備目標(=調査区での必要除伐本数)を立てる上で必須な樹高と立木本数を測定し直すこと。出来れば調査区域内の木々に標識テープを巻き直しておきたい(境界は黄、除伐は白、危険木は赤 等)。

<暴風雨の後始末を>

約 1 時間は小屋周りの整理。暴風による倒木中、一本は何とか片付けたが、宙吊り状態のものは手に負えない。危険がなさそうなのは自然の成行きに任せることにして、「44 林班・ろ」の林床・里道整備と調査区の現況確認の二組に別れて出発。どちらも、暴風雨の後始末を兼ねながら山道に入っていく。

本堂の裏手から始まる自然歩道の山道で実見した様子としては、先ずモミの枝折れを見る。更に 4～500m 先の里道との分岐辺りが最も傷められていて、倒木と落枝が重なっている。歩道に掛っているものは玉切り処理をする。その先、天狗杉までは倒木はないが、溝は全部が埋っており、これは掘り返しておく。

「44 林班ろ」では溪流に木が倒れこみ、保全した里道には山腹から沢山の残置木が滑り落ちている。路肩は今年積んだ場所も傷んでいて、これには「参った」の一語。山腹の林床整備もやりながら、里道補修に取り組む。

一方、調査区へは山頂尾根から南への小尾根を少し降ることになる。山頂尾根では根起こしの倒木が 1 本、隣の他人地からの倒れ込み 4 本を確認。二カ所の調査区では、今後の整備目標に必須の「相対間距比」の基礎データ(標準木の樹高、樹種別立木数)を計測。現状は超過密で相当数の除伐が必要との数字が得られた。今後の作業を「お楽しみ」に。なお、植樹場所も何カ所か立ち寄った処、枯死が散見された(春先より増えた感じ)。

今日の成果を整理すると、倒木は大小径木=10 本以上を処理、林床整備=0.1ha、

水切り溝修復=9 カ所、調査区のチェック=2 ヶ所、その他、各所で落枝処理

<今日の「季節感」>

本山寺の大銀杏と本堂付近の紅葉をお届け。これからの紅葉本番をお楽しみに。(本文・以上)

【今日も無事故が第一】



【小屋周辺の「落枝」】



【画面右奥に中折れ・・・これは放置やむなし】



【可能なものは処理(小屋への道)】



【モミの枝折れ(自然歩道沿い)】



【自然歩道の落枝の状況】



【歩道に被さる倒木】



【可能な倒木は出来るだけ処理】



【里道近くの沢を埋める倒木】



【里道を塞ぐ倒木を片付ける】



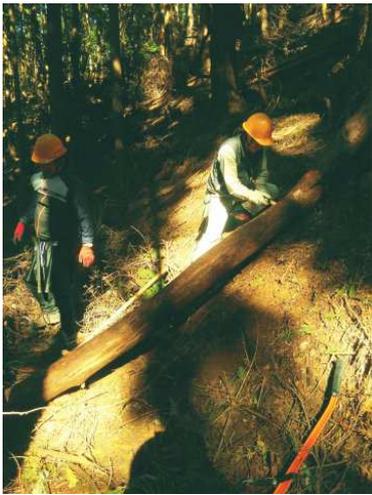
【傷んだ路肩の保全】



【路肩整備中】



【ずり落ちた残置木を玉切り処理】



【里道を通り易く-路肩に棚積み、拡幅】



【一寸一息：健気に育つ稚苗①】



【一寸一息：健気に育つ稚苗②】



【一寸一息：本山寺の大銀杏】



【一寸一息：境内の紅葉】



【自然歩道上の水切り溝修復(着手前)】



【自然歩道上の水切り溝修復(作業後)】



【山頂部の倒木】



【山頂部の根起こし倒木】



【モニタリング調査区(広葉樹優勢)】



【モニタリング調査区(保安林)】

